

バリアフリーまちづくり通信

発行:東淀川区役所 地域課(企画調整)

令和6年7月号

大阪市東淀川区豊新2丁目1番4号 電話:06-4809-9927
 ←東淀川区役所のホームページでは詳細を掲載しています

第50回 まちづくり構想部会を開催しました 令和6年7月11日

東淀川区西部地域における大阪市の取組や各地域での活動状況などについて、話し合いました。

淡路駅エリア のまちづくり について

大阪市計画調整局から、今年度内にとりまとめを行う「淡路駅エリア計画Ver.1.0」などについて情報提供がありました。

- ◆十三駅エリア・淡路駅エリアは、今後、新たなまちづくりが進められる新大阪駅周辺地域のサブ拠点であるとともに、地域におけるまちづくりの中核拠点として考えており、それぞれの特色を生かしながら人の流れや定着人口の増加をはかっていきたい。
- ◆淡路駅エリアは、阪急京都線、千里線、JRおおさか東線の鉄道3線・4駅が集まるエリアで、柴島浄水場の機能集約による用地と阪急連続立体交差の高架下空間の一体的な活用がキーとなっており、「居心地が良く歩きたくなるまちなか」を形成し、エリアの価値向上を図っていききたい。



【まちづくりを進める上での配慮事項】

○進行中のプロジェクトと、新たなまちづくりとの連携による相乗効果を図り、エリア価値の向上につなげる。

進行中プロジェクト



新たなまちづくり



淡路駅エリア のまちづくり について 意見交換

- ◆「居心地が良く歩きたくなるまちなかの形成」とあったが、本当に実現するのであれば、とても楽しみだ。魅力的なまちとして開発されることを期待する。
- ◆高架下は、大きく画一的な利用ではなく、小分けにして色々なものがあるとよいと思う。側道のつくりにかたも重要だ。
- ◆地域内には、現在はお年寄りばかりになっている高層マンションもある。最低でも30～40年後のことまで考えて、将来を見据えた計画にしてほしい。
- ◆久教授(近畿大学総合社会学部教授)から、「淡路駅エリアの各駅と周辺とのつながりや新大阪駅までつなげていくことが必要。そのためには「現場感覚」を持った人たちが議論に参加すべき。「現場感覚」を重要視してもらいたい。」とのお話がありました。
- ◆大阪市計画調整局から、「「現場感覚」はとても大切だと考えている。ぜひ、回を重ねて、地域の皆さんとの対話や検討を進めていきたい。」との回答がありました。

情報提供 & 意見交換

- ◆啓発地域のワークショップ報告会(南西部地域包括支援センター／6月20日開催)について約40名の人々が参加し、啓発地域の強み、課題、将来などについて話し合いました。
 - ・町会ごとに意見が違い、今のことや将来のことなど様々な意見で盛り上がった。
 - ・若い人が参加していなかったのも、これからは若い人の意見も取り入れていきたい。
 - ・商業地が多くなって住みづらくなり、人がいなくなっているが、今住んでいる人は買い物難民のようになっている。東淡路には、移動スーパーが来ているそうなので、また話を聞きたい。
 - ・このような機会をいただけたので、これからも皆さんで話し合っていきたいと思った。